

ものづくりを支える人財育成

オカムラグループは、時代の流れを捉え新たな創造力を持ち生産現場でものづくりを支える優れた人財の育成を行っています。教育訓練体制を整備し、長年にわたって培ってきた高度な技術・技能の継承に努めるとともに、従業員の資格取得も重視し、全体のレベルアップを図っています。

技術・技能の継承

オカムラグループの各生産事業所では、ものづくりに必要な高度な技術・技能の継承に努めています。生産活動が安全かつ円滑に行われ、製品の品質を維持・向上させるために、計画的な人財育成を行っています。

技術技能訓練センター

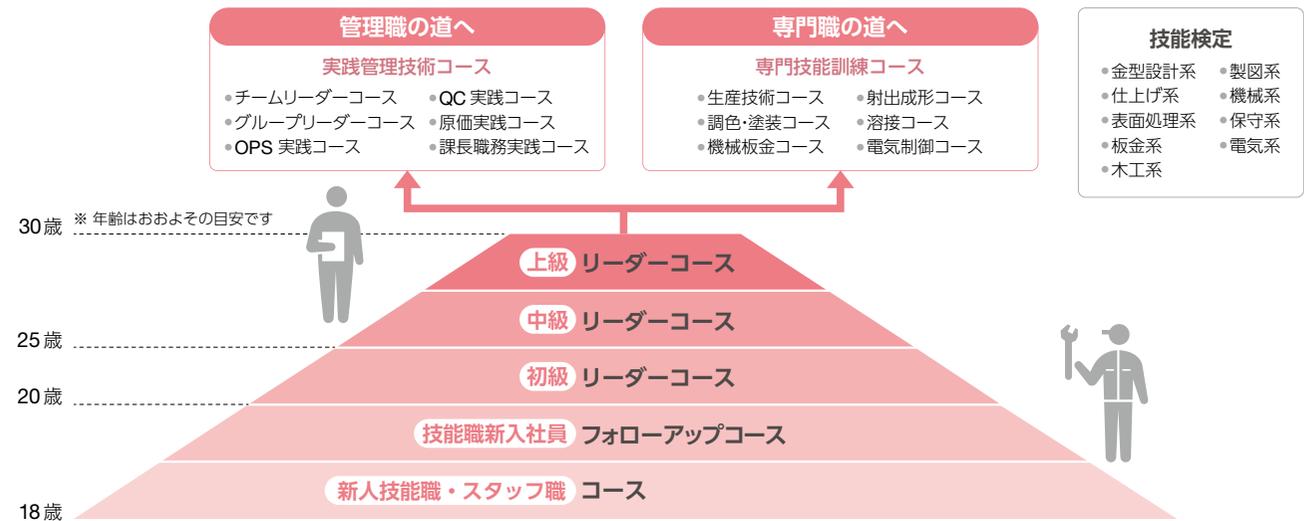
高品質な製品の根幹を支える優れた人財を育成するために、2011年に技術技能訓練センターを開設し、各種プログラムを通じてものづくりに携わる従業員の教育を行っています。プログラムには、若手従業員を育成する「基礎技能」、専門職を育成する「専門技能訓練」、現場の管理力を高める「実践管理技術」の各コースを設けています。受講者数は年間600名を超え、対象となる従業員は通常の業務から完全に離れて集中的に教育を受けます。また「技能検定」の資格取得を推進し、長年培ってきた高度な技術や技能の継承に努めています。IT化や自動化が進む中でも、「何もないところからモノを生み出す力」を育て、モノづくりの基礎力と豊かな発想力を養い、「新たな価値・創造ができる」人財の育成に努めています。

技術技能訓練センターでの教育プログラム

技術技能訓練センターでは、新人コースから始まり、入社3～4年目までのフォローアップコース、リーダーコース、各専門技能訓練コース、各実践管理技術コースなど、実務経験や職務に応じた教育訓練を実施しており、生産部門のさまざまな領域における人財の成長につなげています。基礎技能分野の「リーダーコース」では、ものづくりにおける精度・品質を確保するための原理原則について、400時間を

かけて習得するカリキュラムです。多様化する製品仕様および要求される品質に対し、自ら感性を磨き、高精度・高品質な製品づくりに対応できる能力を備えることを目的としています。また、機械設備の特性や機能を熟知し、性能を最大限に発揮させることで品質向上・コスト削減を達成できるように、社内の特化スペシャリストの指導を受け、理論と実際を習得し、現場力・人間力の向上につなげています。

技術技能訓練センターでの教育プログラム



初級リーダーコース (20教科)

製作課題を通じて、部品の加工から塗装・組立まで一貫した各工程の基礎技能と知識を実践により経験することで、前後工程の役割を理解するとともに、工程設計・品質管理手法・安全のポイントを学びます。原理原則に基づき繰り返し訓練することで、生産に直結した技術技能を自職場で展開・推進できる人財を育成しています。



機械板金



旋盤加工



製品組立

中級リーダーコース (14教科)

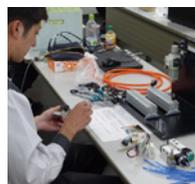
初級コースで学んだことを基本に、自ら設備の維持メンテナンスを主体的にできる技能として、電気制御・保守保全・メカトロニクス技術を中心に学びます。画像認識を用いた品質検査や、設備の予知保全などに人工知能 (AI) を活用する基礎としてプログラミング実習も行い、論理的に実践できる人財を育成することで現場力の向上につながっています。



設備の保守保全



ロボット教示



空圧回路

「技能検定」資格取得の強化

「技能検定」は、働く上で身につける、または必要とされる技能の習得レベルを評価する国家検定制度です。オカムラグループでは、従業員の技能検定の資格取得の促進にも力を入れています。最上位の等級区分である特級の取得者を筆頭に高度な知識とスキルを持ったスペシャリストがオカムラの技術力の向上を牽引しています。

技術技能訓練センターでは、板金、機械加工、表面処理系、射出成形、冷凍空調、電気の職種に対応できる技能訓練コースを用意し、生産事業所の実務経験2年以上の希望者が受講できるようにしています。

資格取得者については、全ての事業所で取得状況を掲示するとともに優秀な成績を収めた代表者は創立記念式典において表彰されるなど、従業員の取得意欲の向上につながっています。

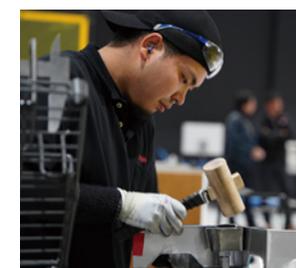


創立記念式典功労表彰者表彰状授与の様子

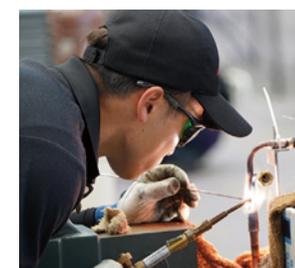
技能五輪全国大会出場を通じた技術・技能の向上

技能五輪全国大会は、次代を担う青年技能者を対象に、技能競技を通じて努力目標を与えるとともに、優れた技能を身近に触れる機会を提供することで、技能の重要性や必要性を伝え、技能尊重機運の醸成に資することを目的とした技能競技大会です。

オカムラでは、地域ごとの予選会を経て2013年から全国大会へ連続出場しており、曲げ板金職種においては2022年大会で過去最高となる銀賞を受賞しました。さらに2021年から冷凍空調技術職種にもチャレンジし、全国大会出場を果たしています。大会での受賞と新たな市場価値につながる技術習得を目標とし、同僚や先輩、指導者とともに日々努力と訓練を重ねることが、技術・技能・人間力の向上、また職場における指導力の向上にもつながっています。



曲げ板金職種大会の様子



冷凍空調技術職種大会の様子

改善活動を通じた人財育成 「OPS活動」

オカムラグループの生産事業所では、ものづくりの合理性を徹底追求した生産方式である「OPS（オカムラプロダクションシステム）活動」を1997年より開始し、全員参加で推進することにより生産現場における人財の育成につなげています。

OPSの根底に流れているのは、徹底したムダの排除の思想です。安全確保を基本に、ムダのある工程を改善し、働きやすい職場環境はもとより、品質の向上、少ない資源・エネルギーによる生産プロセスを追求し、生産効率を高めて原価低減に取り組んでいます。こうした活動を通じて、ムダの存在を的確に把握し、ムダをなくせる人財の育成を図っています。

各生産事業所では、OPSに関する知識の習得を目的として、『OPS実践ハンドブック』や『OPS人材マップ 改善手法解説書』による勉強会を実施しています。また、入社1年目からの研修の体系化を図り、「OPS実践コース」「育成自主研究会」など、若手従業員を対象とした実践の場を設け、改善活動を推進する人財を育成しています。

生産事業所全体で行う「OPS月次報告会」では、日々取り組んでいる改善事例を報告しており、こうした機会を設けることで改善への意欲向上と現場力の向上を図っています。より対応が難しい課題については、各部門より人財を選抜して「全社自主研究会」を開催し、解決を図っています。社内の1年間の活動成果を報告する「OPS改善事例発表会」、お取引先の活動の成果を報告する「お取引様改善事例発表会」では、優れた改善事例を共有し、水平展開を図ることによりオカムラグループ生産現場全体のレベルアップにつなげています。

OPS活動の教育体系

区分	名称	内容	ねらい
選抜	全社自主研究会	事業所単独では困難な課題の改善	成果重視
	育成自主研究会	工数低減のための工程改善	改善具体化
	OPS実践コース	段取り改善・なぜなぜ分析	
	中級リーダーコース	自動化・MCT改善	分析力習得
	初級リーダーコース	標準作業と省人化 (技術技能訓練センターモデル工程)	
必修	技術職3年目研修	標準作業(ボールペン組立演習)	基礎知識習得
	技術職2年目研修	後補充生産(ボルト・ナット組立演習)	
	技術職1年目フォローアップ研修	7つのムダ(各事業所モデル工程)	
	技能職・技術職1年目研修	5Sと5T(ブロック組立演習)	



「OPS月次報告会」での取り組み事例共有の様子



「OPS改善事例発表会」での表彰の様子